

650人が熱戦を展開

鴨川 “世界最年少” 2輪レース

地面を足で蹴って進む幼児向けのランニングバイク「ストライダー」を使った「世界最年少」のレースイベント、「ストライダーエンジョイカップ・鴨川シーワールドステージ」が5、6の両日、鴨川市内の特設会場で開催された。

ストライダーは、アメリカで開発された幼児を対象とした2輪車。自転車のような形をしているがブレーキとペダルがなく、サドルに座って足で地面を蹴りながら進むため、小さな子どもでもコントロールしやすいのが特徴。

ストライダーカップは、北は北海道、南は沖



熱戦を繰り広げるキッズ選手たち＝鴨川

縄まで全国各地で開催され、レースに参加するキッズ選手だけでなく、家族みんなが楽しめるイベントとして人気を集めている。県南での開催は

今回が初めてで、シートワールドや同市観光協会などが協力。県内を中心に、関東一円から650人が出場した。

菜の花のブランターを並べて一足早い春を演出したコースでは、ちびっ子たちが2歳から6歳までの年齢別に4カテゴリーに分かれ、熱いレースを展開。会場には、家族たちの「がんばれ」という黄色い声援がこだましていた。

応援していた県内の30代女性は「たくさんの子どもたちが集まるイベントは、にぎやかで良いで、総の雰囲気を引き立ててすね。コースに並べられていますね」などと話した菜の花が、温暖な南房